



林木遺伝子銀行110番

— 貴重な樹木の苗木の里帰り —

群馬県長野原町のシンボルツリー・サイカチ

林木育種センターの「林木遺伝子銀行110番」の里帰りシリーズ第7弾です。一つ目は、群馬県吾妻郡長野原町にあった「長野原町林地区のサイカチ」です。サイカチは、わが国に自生するマメ科の薬用樹木で、枝と幹の表面に鋭いとげがあります。漢方では、天日で乾燥させた莢、刺と種子は、それぞれ皂莢、皂角刺、皂角子として去痰や腫れ物に、皂莢を含む稀延散と通閑散は、脳卒中に用いられています。また、皂莢を浸した水はサポニンを含み、古文書や骨董品用の洗剤や石けん代わりの洗髪料として使用されています。

「長野原町林地区のサイカチ」は2本の巨木で、樹高がともに18m、胸の高さの直径がそれぞれ50cmと90cmまで達していましたが、ダムの建設に伴い伐採されることになりました。そこで、ダム工事事務所から、地域のシンボルであるこれらの木を何かの形で残したいとの要請を受け、また、群馬県では、サイカチが絶滅危惧IB類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高い)に指定されていることから、親木(1)から採取した枝(2)を用いてさし木増殖で後継樹を育成することになりました(3、4)。ダムの完成に先立って令和元年12月、樹高70cm程度に成長した2本の苗木の鉢植え(5)が工事事務所に引き渡され、本年3月にダムの近くに植栽されました。「長野原町林地区のサイカチ」が、巨木に成長し、再び地域のシンボルになることを願っています。

(林木育種センター遺伝資源部・竹中拓馬)



1 親木、2 穂木、3 さし木増殖、4 発根したさし木苗、5 里帰りした後継樹



林木遺伝子銀行110番

— 貴重な樹木の苗木の里帰り —

国の重要文化財冷泉家住宅の「冷泉家のオガタマノキ」

—— つ目は、京都市上京区にある国の重要文化財冷泉家住宅の庭に生える「冷泉家のオガタマノキ」の里帰りををご紹介します。冷泉家住宅は、かつての公家町^{くげまち}にほぼ完全な姿で保存される、近世公家住宅の唯一の遺構です。その庭に生えるオガタマノキは樹高約15m、胸高直径約65cmの立派な木で、明治20（1887）年頃に冷泉家の22代為系^{ためつぎ}氏の小学校入学記念に植えられたものと伝わっています。過去に落雷の被害を受けており、近年は樹勢が弱まり、台風の被害も懸念されていました。そこで、この由緒ある木を後世に継承^{しぐれていぶんこ}するため、冷泉家時雨亭文庫理事長で25代当主の冷泉為人氏^{ためひと}より関西育種場へ林木遺伝子銀行110番の申請があり受理しました。平成31年春にオガタマノキの枝をコブシの台木へ接ぎ木し、無事活着したので、本年2月に里帰りしました。里帰り当日は、例年はあまり見られない白い花が多数咲いており、後継樹の苗木を歓迎しているようでした。

（林木育種センター関西育種場・山本あゆみ）



1 「冷泉家のオガタマノキ」の親木、2 落雷による被害の痕、3 冷泉為人氏への引き渡し、4 里帰りした後継樹、5 華麗な白い花

「林木遺伝子銀行110番」の利用については、
森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターホームページの「遺伝資源の収集・保存・配布」
URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html> をご覧いただくか、
遺伝資源収集係（林木育種センター Tel.0294-39-7000）にお問合せ下さい。



撮影：岩村孝
提供：（公財）冷泉家時雨亭文庫